

## 建設の最先端技術紹介

### 名古屋でフェア、326団体出展

建設分野の最先端技術や研究などを紹介する「建設技術フェア2022 in 中部」(国土交通省中部地方整備局など主催、岐阜新聞社、岐阜放送後援)が4日、名古屋港区のポートメッセなごやで始まった。「建設現場のDXが未来を創る」をテーマに、中部地方を中心にした326の企業

・団体がブースを出展した。5日まで。

県内からは、UAV活用研究会、シンクロアイス、大日コンサルタント、亀太、全国落石災害防止協会、イビコン、南濃コンクリート工業、全国SC研究会中部支部、岐阜大学地盤工学研究室、ティコク、篠田、井納木材・井納建設、山辰組、

アーボ、松岡コンクリート工業、東洋スタビ、金太、



最先端のバーチャル会議システムなど、企業の技術が紹介されている会場。名古屋港区、ポートメッセなごや

マルアイ商事、揖斐川工業、岐阜県が参加している。

会場では、スマートグラスを活用した遠隔作業支援システムやタイヤの滑りを防ぎ、工事車両の安全走行をアシストするロードマップなど、企業が生み出した最新技術による成果が紹介されている。大日コンサルタント(岐阜市)は、人がメタバース上に集うバーチャル会議システムを出展。来場者がシステムを体験しながら、担当者から性能などの説明を受けた。